

2月19日(日)

藤市民会館 大ホール

☎048-445-7660

前売り券500円4作品鑑賞可 当日券500円 1作品ごと

① 9時30分~12時13分

五瓣の椿

岩下志麻 田村高広 左幸子
加藤剛



名女優たちの
文芸映画!

② 13時~15時13分

雪国

岸恵子 池部良 八千草薫

山本富士子
佐久間良子

③ 15時30分~17時47分

五番町夕霧楼

佐久間良子 河原崎長一郎



岸恵子
岩下志麻

④ 18時~19時44分(終了)

夜の河

山本富士子 上原謙 川崎敬三



美味しい! 面白い! 上手い!
藤戸田喫茶飲食組合
当日から15日間
入場券・半券で
指定店にて10%OFF

1964年 松竹 (大船)

五瓣の椿

9時30分~12時13分

原作 山本周五郎
脚色 井手雅人
監督 野村芳太郎
撮影 川又昂
音楽 芥川也寸志

[出演者]

岩下志麻 田村高広
加藤剛 山岡久乃 加藤嘉
左幸子 小沢昭一 岡田英次 伊藤雄之助
(カラー シネマスコープ 163分)



山本周五郎の同名小説を井手雅人が脚色し、川又昂が撮影、野村芳太郎が監督にあたった文芸大作。父の恨みを晴らすために、好色な母と関係した男達を誘惑し、一人ずつ殺害していく娘おしのの復讐を描く。その男たちは、三味線引き蝶太夫、婦人科医、札差屋の倅、芝居茶屋の出方、袋問屋の主人とさまざまだが、死体の傍らにはつねに一輪の椿が残されていた。この陰惨な物語を、岩下志麻は内に気丈さと気品を湛えた演技で好演し、代表作の一つとなった。また、この作品の場合、松竹映画を支えてきた技術陣の力も見逃すことはできない。とくに、主人公の心理描写に赤、白、黒の色彩を効果的かつ象徴的に用いた独自の撮影は、川又昂カメラマンの力量を発揮したものであった。

1957年 東宝

雪国

13時~15時13分

原作 川端康成 脚色 八住利雄
監督 豊田四郎 音楽 団伊玖磨
美術 伊藤嘉朔

[出演者]

池部良 岸恵子 八千草薫
久保明 田中春男 浪花千栄子
浦辺粂子 千石規子 市原悦子
(白黒 スタンダード 133分)



「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」・・・不朽の川端文学を、文芸映画を得意とした豊田四郎が監督した。日本画家の島村(池部)は、戦争への暗い世相のなかで、越後湯沢の温泉場で逢った芸者・駒子が忘れられず、再びその温泉場を訪れる。二人は互いに惹かれ合うが、駒子には旦那があり、島村は東京に妻子がいた。徐々に惹かれ合ってゆく島村と駒子の心理が、熟練した豊田四郎の細やかな演出で表現される。また、雪国の空気と生活感がにじみ出る映画美術も、本作を格調高いものになっている。岸恵子は本作の製作中に、フランス人映画監督のイヴ・シャンピとの婚約を発表、封切と時を同じくしてフランスへ旅立った。1965年に岩下志麻・木村功主演で再映画化されている。

1963年 東映 (京都)

五番町夕霧楼

15時30分~17時47分

原作 水上勉 脚本 鈴木尚之
脚本・監督 田坂具隆
撮影 飯村雅彦 音楽 佐藤勝

[出演者]

佐久間良子 河原崎長一郎
木暮実千代 進藤英太郎 千秋実
宮口精二 丹阿弥谷津子 岸輝子
岩崎加根子 千田是也 赤木春恵

(カラー シネマスコープ 137分)



田坂具隆監督は戦前からのキャリアをもつ名匠の一人。『路傍の石』、『五人の斥候兵』(ともに1938)などの名作で広く知られる。地味ではあるが、堅実な作風はかねてから定評がある。この作品でも長所を随所で認めることができる。遊郭の佇まいや内部の造りなど、物語の背景に対して、田坂監督ならではの配慮がなされており、表現に厚みをくわえている。脚本家の鈴木尚之によれば、旦那と恋人のあいだで揺れる女の身体と心を描く官能的な場面の演出に先立ち、田坂は佐久間良子に主人公を理解させるために時間をかけた演技指導をしたという。善良な遊郭の女将、娼妓といった設定を意図的にすることで、主人公の薄幸がより純粋に、観客に印象づけられた。田坂には同じ水上勉原作の映画化作品に『湖(うみ)の琴』(1966)がある。

キネマ旬報ベストテン第3位。

1956年 大映 (京都)

夜の河

18時~19時44分 映画会終了

原作 沢野久雄 脚本 田中澄江
監督 吉村公三郎 音楽 池野成
撮影 宮川一夫 照明 岡本健一

[出演者]

山本富士子 上原謙 小野道子
市川和子 阿井美千子 川崎敬三
小沢栄太郎 橘公子 東野英治郎 山茶花究
(カラー スタンダード 104分)



吉村公三郎監督はすでに戦前の名作『暖流』(1939)で、それまでに描かれなかった主体的で理知的なヒロインを描いているが、この主人公も、その延長線上に位置している。舞台は伝統的な京染めの世界である。宮川一夫のカメラが、当時の京都の景色を美しくとらえており、山本の魅力を引き出すために色彩をグレーに絞った効果も発揮されている。愛する男の妻の病死後、「別れ」を選ぶ決然とした生き方は、彼女が新しい女性、誇り高き女を示している。山本は本作を契機にトップ・スターの道を歩み始めた。日本映画の色彩化への過渡期の作品で、吉村監督初めてのカラー作品、夜汽車の漆黒の窓を流れていく赤いネオンサインなど随所に色彩の工夫がある。キネマ旬報ベストテン第2位。

前売り券・取扱所・車賃仙 (中央) 431-5631 関口商店 (塚越) 442-0867 萬寿屋 (北町) 431-2438 魚亀 (錦町) 443-6830
根岸クリーニング (南町) 442-4910 塚越 石川 441-5496 中野 442-9991 北町 米田 443-2763
中央 木原 445-4023 小宮 432-5404 錦町 尾崎 443-8018 南町 高松 443-3011 勝島 443-0819
全域 中西 03-5615-1056 日種 267-0691 仲内 444-3176 お得な前売り券を、早めにお求めください。